

令和8年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔生物生産学部（生物生産学科）〕

プログラムの名称（和文） （英文）	応用動植物科学主専攻プログラム ----- Applied Animal and Plant Science Program
1. 取得できる学位 学士（農学）	
<p>2. 概要</p> <p>生物生産学部では、生物生産に係わる自然科学から社会科学に及ぶ幅広い知識と知恵を身につけさせることを目標とする。具体的には、食料生産、生物資源、生物環境、バイオテクノロジーに関する基礎的知識の修得、フィールド科学分野の体験学修、生命倫理や科学技術倫理の理解、英語等の語学能力や情報処理能力の修得を目指した教育を行う。</p> <p>応用動植物科学主専攻プログラムは、5つのキーワード（動物生産、植物生産、生産環境、生物資源、生物機能）のもとに構成された教員によって実施され、陸域における動物と植物の生産と利用に関する基礎的な知識と技術を体系的に身につけ、関連分野の情勢を広く洞察し、問題解決に取り組むことのできる人材を育成する。本プログラムを履修する学生は、動植物の生理機能とその生産環境を理解し、動植物の新たな有用機能の開発、健全で近代的な動植物生産の理論と技術、自然と人と動植物との関わり、動植物資源の利用等を学ぶ。これらの内容についての知識・理解は講義を通じて学修するとともに、フィールドでの体験的実習や動物・植物を用いた実験を通じて知的・実践的能力を修得する。また、外書講読を通じて国際的な視野を養う。さらに、卒業論文研究において総合的な能力を高める。</p> <p>本プログラムの意義は、品質と安全性に優れた動物性及び植物性食資源の持続的な生産や人間生活の豊かさを向上させるための動植物資源の利用等の、動物・植物生産分野で貢献できる基礎的な能力と、これに関連する国際的な広い視野を涵養することにある。</p> <p>本プログラムでは、卒業後に大学院に進学しさらに高度な専門的知識と技能を有した人材や、農林水産関係の官公庁、農業・食品・化学・医薬等に関係する業界で国際的視野を持った研究者・専門技術者等となる人材を養成する。</p>	
<p>3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標）</p> <p>応用動植物科学主専攻プログラムでは、品質と安全性に優れた動物性及び植物性食資源の持続的な生産や人間生活の豊かさを向上させるための動植物資源の利用等に関わる分野の研究者・専門技術者等として活躍できる人材を養成する。そのため本プログラムでは、以下の能力を身につけ、基準となる単位を修得すると共に規定の到達目標に達し、かつ生物生産学部が定める審査に合格した学生に「学士（農学）」の学位を授与する。</p> <p>教養教育科目を通して</p> <p>(1) 自主的・自立的に学修する態度を習慣づけており、情報収集力・分析力・批判力を身につけ、これらを活用できる。</p> <p>(2) ものごとの本質と背景を広い視野から洞察する力や、国際人として生きるにふさわしい語学力と平和に対する関心を持つことができる。</p> <p>(3) 幅広い知識から、問題を発見し、真に問題解決に役立つ「知識体系」へと統合し、総合的な見地からも</p>	

のごとを俯瞰できる。

- (4) 一般的な科学的基礎知識を持ち、生物生産学の専門領域への応用展開に必要な知識と技能を理解できる。

専門教育のうち専門基礎科目を通して

- (5) 生物及び生物圏に関する先端的な話題や基本的な概念を理解できる。
(6) 生物生産学の価値志向性やグローバル化した社会との関わりを理解でき、科学の応用における対話や合意形成の重要性を理解できる。
(7) 研究上の不正行為の問題性と研究者・技術者倫理の重要性を理解できる。

本プログラムの専門科目を通して

- (8) 動植物資源の生産・利用に関して、分子・細胞・個体レベルでの生命現象ならびに生態系や生産環境に至るまで体系的に理解できる。
(9) 動植物資源の生産・利用に関する学問領域において、情報の収集・分析力や研究手法を体系的に習得し、実践的に応用・活用できる。
(10) 動植物資源の生産・利用を学ぶことにより得た知識・技能等を総合的に活用し、自らがたてた課題に取り組み、結論を文章や口頭で論理的に表現し、議論することができる。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

応用動植物科学主専攻プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針に従って教育課程を編成し、実践する。

- (1) 教養教育では、平和を希求し、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指し、さらに実用的外国語運用能力、国際的視野や異文化理解能力、情報活用能力やコミュニケーション能力を養成する。また、教養教育の中に基盤科目を配置し、生物生産学の専門領域への応用展開に必要な科学的な基礎知識と技能を理解する能力を養成する。
(2) 専門教育では、まず、学部共通の「専門基礎科目」を通して、生物及び生物圏に関わる専門基礎力を養成する。この中には、海外演習、インターンシップ、フィールド演習、科学技術倫理学も含まれ、国際社会及び地域社会において指導的な活動を行うための想像力と実践性を備えた基礎力、並びに研究上の不正行為の問題性と研究者・技術者倫理の重要性を理解する能力を養成する。
(3) 本プログラムの専門教育では、動物・植物生産に関わる「専門科目」を通して、動植物生産を体系的に理解することのできる能力及び当該分野の「演習」や「実験」を通じて、実践的に応用・活用できる技能を修得する教育を実施する。さらに「卒業論文」により、コミュニケーション・プレゼンテーション・実践的外国語能力も含めた総合的な問題解決能力を身につけた人材を養成する。
(4) 学修の成果は、各科目の成績評価とともに本プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

5. 開始時期・受入条件

生物生産学部では、生物生産学科として一括して入学試験を行う。入学後、1年次前・後期及び2年次前期において、全学向けに開講されている教養教育科目（教養ゼミ・平和科目・**平和必修科目**・大学教育入門・外国語科目・情報科目・領域科目・健康スポーツ科目）を中心に履修する。応用動植物科学主専攻プログラムへの実質的な配属時期は、2年次後期である。

学生は入学後の1年間、**基礎化学実験及び基盤科目**を履修し、専門分野を学ぶために必要な基礎的知識を学修する。その後、2年次の前期では、生物生産学部共通に関わる専門基礎科目を中心に履修する。特に、生物生産学部共通の実験科目として、**食品生命科学リサーチベーシック実験 A・B 及び生物資源科学リサーチベ**

ーシック実験 A・B を履修し、生物生産学部共通で必要とされる幅広い分野における基礎的な実験トレーニングを行う。この2年次前期までに、幅広い教養と、英語等の語学能力や情報処理能力、生物生産学部として共通の基礎的知識、生命倫理や科学技術倫理を修得するとともに、各学生が各主専攻プログラムの教育目標、特徴等を十分理解し、最適なプログラムを選択する。

2年次後期に、本人の希望と成績により、4つの主専攻プログラム（水圏統合科学、応用動植物科学、食品科学及び分子農学生命科学）のいずれかに配属される。当該年度の配属対象者を4等分して各プログラムに配属されることを原則とする。ただし、小数点以下は繰り上げる。

なお、プログラムに配属されるためには、規定の「プログラム配属要件」を満たさなければならない。

6. 取得可能な資格

(1) 学芸員の資格

(2) 食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格

取得に関する詳細は、「学生便覧」を参照すること。

(3) 甲種危険物取扱者試験の受験資格

7. 授業科目及び授業内容

授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。

授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学修の成果

各学期末に、学修の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学修の成果を「極めて優秀(Excellent)」、「優秀(Very Good)」、「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S (秀: 90点以上)	4
A (優: 80~89点)	3
B (良: 70~79点)	2
C (可: 60~69点)	1

学修の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00~4.00
優秀(Very Good)	2.00~2.99
良好(Good)	1.00~1.99

別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

9. 卒業論文(卒業研究)(位置づけ, 配属方法, 時期等)

(1) 目的

本プログラムにおける卒業研究では、先端的な研究にかかわることによって、応用動植物科学分野での課題やその背景を体系的に理解し、課題解決のための基礎的な研究手法を学ぶと共に、得られた結果の解析と考察を通じて総合的能力を身につけることを目的とする。

(2) 概要と位置づけ

学生は、指導教員の指導のもと、卒業論文研究を行う。卒業研究を通して、現状の把握（理解力、情報力）→問題点の発見（分析力、洞察力）→成果の発表（提案力、実行力）のプロセスを経験し、卒業後の進路で通用する専門家としての能力と技能を身につける。

学生は、研究遂行に必要な基礎的な概念、研究倫理等を学ぶとともに、研究計画を立案後、研究実験手法を学び、研究を実施する。また、得られた研究結果を考察し、次の研究目標を立てる。一連の研究を体験することにより、最先端の研究活動の概要に接する。研究の成果は卒業論文として取りまとめ、指定の期限までに提出し、論文試験により評価を受ける。

(3) 指導教員の決定時期と方法

学生の指導教員を決定する時期は、3年次後期とする。

指導教員の決定方法は、プログラム担当教員会の規定に従い、担当チューターの指導のもと行う。担当チューターは、2年次にガイダンスを開催し、各教員の専門を学生に周知する。また、学生に卒業論文発表会や修士論文発表会に参加するよう指導し、各教員の研究内容を理解させる。3年次前期には、各教員の研究内容、研究環境等に関する説明会を開催する。また、学生は各教員を訪問し、卒業論文の内容や研究の環境等を把握する。指導教員の決定は、担当チューターが希望調査と人数の調整を行い、プログラム担当教員会で了承する。

10. 責任体制

(1) PDCA責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価 (check)・改善 (action)）

計画（plan）・実施(do)は、学部教務委員会及び講義担当者が行う。

プログラム担当教員会は、責任を持って主専攻プログラムを計画・実施する。その責任者としてプログラム主任を置く。

学部教務委員会は、学部で実施される主専攻プログラムを統括する。

学部教務委員会は、各プログラムから選出された委員と学部から選出された委員長等からなる。

評価(check)は、教育改革推進委員会が行う。

教育改革推進委員会は、各プログラムから選出された委員と学部から選出された委員長、学部教務委員長等で構成される。

教育改革推進委員会は、各プログラムが実施した主専攻プログラムの評価検討を行い、その結果を学部教務委員会、プログラム担当教員会に報告し、助言・勧告を行う。

改善(action)は、主専攻プログラムの実施責任母体であるプログラム担当教員会が行う。

プログラム担当教員会、学部教務委員会は、教育改革推進委員会が行った評価検討後の報告及び助言・勧告を尊重し、改善のための計画案を作り、実施する。

各プログラムに、担当チューターを置き、学修指導、生活指導などを行う。

各プログラムに、卒業論文を指導するための指導教員を学生ごとに配置し、卒業論文指導を通じて卒業までの指導を行う。

プログラム担当教員会、学部教務委員会、教育改革推進委員会は、各役割を責任を持って実行し、お互いに連携をとりながら、学部教育の計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action)を行い、学部教育の改善に努める。

(2) プログラムの評価

プログラム評価の観点

本プログラムでは、「教育的効果」と「社会的効果」を評価の観点とする。

「教育的効果」では、プログラムの実施に伴う学生の学修効果を判定する。

「社会的効果」では、プログラムの学修結果の社会的有効性を判定する。

評価の実施方法

本プログラムでは、上記の評価の観点に従い、4年次後期にプログラムの成果を評価する。「教育的効果」に関しては、本プログラムを学修した学生の成績及び到達度について、実施した教員グループによる総合的な評価を行う。また、学生全体のプログラム達成水準を評価し、点検する。「社会的効果」に関しては、本プログラムの内容と密接に関連する企業への就職率、公務員試験合格率等を調査することで評価を行う。一定期間毎に、学生が主に就職する企業の人事担当者にプログラムの評価を依頼する。さらに、卒業生にも、当人の自己評価及びプログラムの評価を依頼する。企業及び卒業生に依頼するプログラムの評価内容は、プログラムの各授業科目及びその内容が社会的活動を行う上で有益であったか、授業内容が科学技術の変化や社会の変化に対応しているか、今後必要となる授業科目はないか等について、評価や意見を求める。

学生へのフィードバックの考え方とその方法

教育改革推進委員会は、一定期間毎に、学生へのアンケートやヒアリングを行い、プログラムを点検・評価するとともに、プログラム内容の見直し、改善のための助言・勧告を行う。

履修表(教養教育科目)

(水圏統合科学・応用動植物科学・食品科学・分子農学生命科学主専攻プログラム)

区分	科目区分	要修得 単位数	授業科目等	単位数	履修 区分	履修年次(注1)													
						1年次		2年次		3年次		4年次							
						前	後	前	後	前	後	前	後						
平和 基盤 科目	平和科目	2		2	必修	○													
	平和共修科目	1	Fundamentals of collaborative learning for Peace	1	必修	◎													
大学 教育 基礎 科目	教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	◎													
	大学教育入門	2	大学教育入門	2	必修	◎													
	展開ゼミ	0	(注3)	1		○	○	○	○	○	○								
外国語科目 共通科目	英語 (注2)	コミュニケーション基礎	コミュニケーション基礎 I	1	必修	◎													
			コミュニケーション基礎 II	1			◎												
	コミュニケーション I	コミュニケーション I A	1	必修	◎														
		コミュニケーション I B	1		◎														
	コミュニケーション II	コミュニケーション II A	1	必修		◎													
		コミュニケーション II B	1			◎													
	初修外国語(1言語選択)(注2)	ベーシック外国語 I	1	選択 必修	◎														
		ベーシック外国語 II	1		◎														
		ベーシック外国語 III	1			◎													
		ベーシック外国語 IV	1			◎													
	情報・データサイエンス科目	情報・データ科学入門(注3)	2	必修	◎														
		データサイエンス基礎(注3)	2	必修		◎													
	領域科目	12	(注3)	1 又は2	選択 必修	○	○	○	○	○	○	○							
社会連携科目	0	(注3)			○	○	○	○	○	○									
健康スポーツ科目	2	(注4)	1 又は2	選択 必修	○	○													
基盤科目	有機化学	2	必修		◎														
	細胞科学	2			◎														
	生物学実験法・同実験 I	1			◎														
計	40																		

○ 履 修 上 の 留 意 事 項

注 1：○印は標準履修年次を，◎印はその年次での履修を強く要望していることを表しており，◎，○を示す年次以降はいつでも履修することが可能である。なお，授業科目により開設期が異なる場合があるので，学生便覧の教養教育開設授業科目一覧で確認すること。

注 2：自学自習による「オンライン英語演習Ⅰ」，「オンライン英語演習Ⅱ」及び「オンライン英語演習Ⅲ」の履修により修得した単位を，卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。なお，要修得単位数を超えて修得した領域科目及び社会連携科目のうち，使用言語が「英語」の授業科目の単位数は，卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また，外国語技能検定試験，語学研修による単位認定制度もある。詳細については，学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注 3：領域科目は，自然科学系科目群から4単位以上，人文社会科学系科目群から4単位以上を修得すること。ただし，自然科学系科目群の「生物の世界」は入学試験において生物を受験していない者の要望科目である。他の者は「生物の世界」を修得しても卒業要件単位に含めない。4単位を超える情報・データサイエンス科目の修得単位は自然科学系科目群に含めることができる。社会連携科目は，4単位まで人文社会科学系科目群に含めることができる。展開ゼミは，領域科目に含めることができる。

注 4：健康スポーツ科目は，スポーツ実習を履修することが望ましい。

別表第2 (生物生産学部細則第6条第3項, 第17条関係)

履修表(専門基礎科目)

(水圏統合科学・応用動植物科学・食品科学・分子農学生命科学主専攻プログラム)

区分	科目区分	要修得 単位数	授 業 科 目	単位数	履 修 年 次															
					1年次		2年次		3年次		4年次									
					前	後	前	後	前	後	前	後								
専 門 教 育 科 目	専門基礎科目	27	基礎化学実験	1	○															
			生物生産学入門	2	○															
			微生物学入門	2	○															
			分子生化学入門	2		○														
			食料資源論	2		○														
			生物生産学のための物理学入門	2		○														
			科学技術倫理学	2		○														
			生物統計学	2			○													
			生物環境学	2			○													
			食品生命科学リサーチベーシック実験A	1			○													
			食品生命科学リサーチベーシック実験B	1			○													
			生物資源科学リサーチベーシック実験A	1			○													
			生物資源科学リサーチベーシック実験B	1			○													
			必修科目 計 21 単位																	
						フィールド科学演習	2		○											
						生物資源科学リサーチフロント	2		○											
						食品生命科学リサーチフロント	2		○											
			生理学入門	2			○													
			公衆衛生学	2						○										
選択必修科目 上記科目から6単位選択必修 (6単位を超える履修単位は各プログラムの選択科目とする。)																				

応用動植物科学主専攻プログラム履修表(専門科目)

区分	科目区分	要修得 単位数	授業科目	単位数	履修年次											
					1年次		2年次		3年次		4年次					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
専門 教育 科目	専門科目	58	植物栄養生理学	2												
			植物生産土壌学	2												
			動物遺伝育種学	2												
			動物栄養学	2												
			動物生体機構学	2												
			動植物生産学概論	2												
			応用動植物科学実験実習	1												
			動物生産学実験	1												
			応用動植物科学外書講読	2												
			生殖生物学	2												
			動物生産管理学	2												
			植物生産学実験	1												
			動物生産学実験	1												
			農場実習	1												
			卒業論文	2												
			卒業論文	2												
			卒業論文	2												
			必修科目 29 単位													
						植物バイオサイエンス	2									
						動物福祉論	2									
						動物生産生理学	2									
						草地・飼料学	2									
						植物分子生物学	2									
						畜産食品製造学実験実習	1									
						酪農フィールド科学演習	2									
						応用動植物科学特論	1									
						食品衛生学	2									
						食品生化学	2									
						動物環境生理学	2									
						応用動植物科学特論	1									
						応用動植物科学特論	1									
			選択必修科目 14 単位選択必修 (14 単位を超える履修単位は選択科目とする。)													
			選択科目 15 単位以上修得													
・生物生産学科の他プログラムの専門教育科目(専門基礎科目及び外書講読を除く。)も選択科目に含めることができる。																
・他学部等の専門教育科目(専門基礎科目を除く。),他大学との大学間協議又は部局間協議に基づく提供科目及び派遣先で修得した AIMS プログラム提供科目は 10 単位まで含めることができる。																
・教養教育科目及び教職に関する科目は含めることはできない。																
・自身が登録した副専攻プログラム又は特定プログラムにより履修した科目は,選択科目に含めることはできない。																
合計		125														

〔卒業要件単位数〕125 単位(教養教育科目 40 単位+専門基礎科目 27 単位+専門科目 58 単位)

応用動植物科学主専攻プログラムにおける学習の成果 評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 専門分野に関わる課題を解決するために必要な、学際的・総合的に考える能力や、広い視野から俯瞰し行動するための知識・理解	専門分野に関わる課題を解決するために、学際的・総合的に考える能力や、広い視野から俯瞰し行動する能力について、優れた力を持っている。	専門分野に関わる課題を解決するために、学際的・総合的に考える能力や、広い視野から俯瞰し行動する能力について、十分な力を持っている。	専門分野に関わる課題を解決するために、学際的・総合的に考える能力や、広い視野から俯瞰し行動する能力について、基礎的な力を持っている。
	(2) 専門分野を学ぶために必要な基礎的知識・理解	専門分野を学ぶために必要な基本的な知識があり、かつ深く理解し、他の項目と関連付けて応用的な説明ができる。	専門分野を学ぶために必要な基本的な知識があり、十分に理解し、他の項目と関連付けて説明ができる。	専門分野を学ぶために必要な基本的な知識があり、概ね理解し、基本的な説明ができる。
	(3) 動植物生産に関わる分子・細胞・個体レベルの生命現象や、それを支える生産環境についての知識・理解	動植物生産に関わる分子・細胞・個体レベルの生命現象や、それを支える生産環境について詳細に説明できる。	動植物生産に関わる分子・細胞・個体レベルの生命現象や、それを支える生産環境について説明できる。	動植物生産に関わる分子・細胞・個体レベルの生命現象や、それを支える生産環境について基本的な説明ができる。
	(4) フィールドにおける動植物生産機構並びに動植物と人間社会・自然環境との関係について、知識・理解	フィールドにおける動植物生産機構並びに動物と人間社会・自然環境との関係について十分に理解している。	フィールドにおける動植物生産機構並びに動物と人間社会・自然環境との関係について理解している。	フィールドにおける動植物生産機構並びに動物と人間社会・自然環境との関係について概ね理解している。
能力・技能	(1) 専門的分野を学ぶために必要な基礎的コミュニケーション・情報処理・身体活動の能力	専門的分野を学ぶために必要な基礎的なコミュニケーション・情報処理・身体活動の各要素について、優れた力を持っている。	専門的分野を学ぶために必要な基礎的なコミュニケーション・情報処理・身体活動の各要素について、十分な力を持っている。	専門的分野を学ぶために必要な基礎的なコミュニケーション・情報処理・身体活動の各要素について、基礎的な力を持っている。
	(2) 専門分野を学ぶために必要な基礎的実験能力・技能	専門的分野を学ぶために必要な基礎的実験能力・技能を十分身につけており、主体的に活用することができる。	専門的分野を学ぶために必要な基礎的実験能力・技能を十分身につけており、指示に従って実施することができる。	専門的分野を学ぶために必要な基礎的実験能力・技能を概ね身につけており、実施の補助ができる。
	(3) 動植物の生産機能について、分子・細胞・個体レベルで生物学的な基本分析と評価能力	生物学的な観察や生理・生化学的ならびに分子生物学的な基本分析と評価が主体的にできる。データを適切な方法で解析することができる。	生物学的な観察や生理・生化学的ならびに分子生物学的な基本分析と評価が指示に従ってできる。	生物学的な観察や生理・生化学的ならびに分子生物学的な基本分析と評価法を理解している。
	(4) 動植物の取り扱いや試験ならびに飼育・栽培管理の基本的な手技	植物を適切に栽培管理することができる。資源動物および実験動物を主体的に長期にわたり飼育管理することができる。動物の保定法や採材法を習得している。	植物を栽培管理することができる。資源動物および実験動物を指示に従って飼育管理することができる。動物の保定法や採材法を理解している。	植物の栽培管理の補助ができる。資源動物および実験動物の飼育管理の補助ができる。
	(5) 動植物の生産現場における飼育環境の基本的な評価能力	植物の栽培管理条件や動物の飼育管理条件、飼育設備、飼料等の環境条件を主体的に評価することができる。	植物の栽培管理条件や動物の飼育管理条件や飼育設備、飼料等の環境条件を指示に従って評価することができる。	植物の栽培管理条件や動物の飼育管理条件や飼育設備、飼料等の環境条件を指示に従って測定することができる。
	(6) 英文の専門的学術論文読解の基礎となる科学英語を修得するとともに習得した知識・フィールドへのアプローチ方法を基礎とした国際的コミュニケーション能力	英語に関する非常に高い読解力を有し、専門的な学術論文を読むことができるとともに、国際的コミュニケーション能力を十分かつ深く身につけている。	英語に関する高い読解力を有し、専門的な学術論文をある程度読むことができるとともに、国際的コミュニケーション能力を十分かつ深く身につけている。	英語に関する読解力を有し、専門的な学術論文を部分的ではあるが読むことができるとともに、国際的コミュニケーション能力を十分かつ深く身につけている。

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
総合的な力	(1) 動植物生産に関連する具体的諸事象について、自らの対象を設定し、それについての自分の考えをまとめ、文章や口頭で論理的に発表し、応答する能力	対象設定力、情報処理・統計整理能力、論理的表現力、独創的研究力、応答的コミュニケーション能力といった総合的能力・技能の各要素について、優れた力を持っている。	対象設定力、情報処理・統計整理能力、論理的表現力、独創的研究力、応答的コミュニケーション能力といった総合的能力・技能の各要素について、十分な力を持っている。	対象設定力、情報処理・統計整理能力、論理的表現力、独創的研究力、応答的コミュニケーション能力といった総合的能力・技能の各要素について、基礎的な力を持っている。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムにおける教養教育は、専門教育を受けるための学問的基盤作りの役割を担っています。自主的・自立的に学習する態度を習慣づけ、情報収集力・分析力・批判力を基盤とする科学的思考力を養成します。ものごとの本質と背景を広い視野から洞察する力や、国際人として生きるにふさわしい語学力と平和に関する関心を強化します。幅広い知識を、真に問題解決に役立つ「知識体系」へと統合し、総合的な見地からものごとを俯瞰できる能力を養成します。

科目区分	授業科目名(一部は科目区分を表す)	単位数	必修・選択区分	開設期	主要授業科目	評価項目																				科目中の評価項目の総加重値				
						知識・理解								能力・技能													総合的な力			
						(1)		(2)		(3)		(4)		(1)		(2)		(3)		(4)		(5)		(6)			(1)			
						科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値	科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値		科目中の評価項目の加重値	評価項目中の加重値		
専門教育科目	生物資源科学リサーチフロント	2	選択必修	2セメ		10	1	60	1	10	1	10	1													10	1	100		
専門教育科目	食品生命科学リサーチフロント	2	選択必修	2セメ		10	1	60	1	10	1	10	1													10	1	100		
専門教育科目	生理学入門	2	選択必修	3セメ				80	1	10	1	10	1															100		
専門教育科目	公衆衛生学	2	選択必修	6セメ		10	3	60	1																	10	1	100		
専門教育科目	植物栄養生理学	2	必修	4セメ						80	1	10	1														10	1	100	
専門教育科目	植物生産土壌学	2	必修	4セメ						80	1	10	1														10	1	100	
専門教育科目	動物遺伝育種学	2	必修	4セメ						80	1	10	1														10	1	100	
専門教育科目	動物栄養学	2	必修	4セメ						80	1	10	1														10	1	100	
専門教育科目	動物生体機構学	2	必修	4セメ						80	1	10	1														10	1	100	
専門教育科目	動植物生産学概論	2	必修	4セメ		10	1	60	1	10	1	10	1														10	1	100	
専門教育科目	応用動植物科学実験実習	1	必修	4セメ						10	1						30	1	30	1	30	1							100	
専門教育科目	動物生産学実験I	1	必修	4セメ						10	1					5	3	75	1								10	1	100	
専門教育科目	応用動植物科学外書講読	2	必修	5セメ										50	1											50	1		100	
専門教育科目	生殖生物学	2	必修	5セメ						80	1	10	1														10	1	100	
専門教育科目	動物生産管理学	2	必修	5セメ						10	1	80	1														10	1	100	
専門教育科目	植物生産学実験	1	必修	5セメ						10	1							30	1	30	1	30	1						100	
専門教育科目	動物生産学実験II	1	必修	5セメ						10	1									75	1	5	3				10	1	100	
専門教育科目	農場実習	1	必修	5セメ								10	1							10	3	70	1				10	1	100	
専門教育科目	植物バイオサイエンス	2	選択必修	5セメ						80	1	20	1																100	
専門教育科目	動物福祉論	2	選択必修	5セメ		10	3					80	1														10	1	100	
専門教育科目	動物生産生理学	2	選択必修	5セメ						20	1	70	1														10	1	100	
専門教育科目	草地・飼料学	2	選択必修	5セメ						10	1	80	1														10	1	100	
専門教育科目	植物分子生物学	2	選択必修	5セメ						90	1	10	1																100	
専門教育科目	畜産食品製造学実験実習	1	選択必修	5セメ								80	1			20	1												100	
専門教育科目	酪農フィールド科学演習	2	選択必修	5セメ								10	1							10	3	70	1				10	1	100	
専門教育科目	応用動植物科学特論	1	選択必修	5セメ						20	1	80	1																100	
専門教育科目	食品衛生学	2	選択必修	6セメ		10	1	10	1	10	1	70	1																100	
専門教育科目	食品生化学	2	選択必修	6セメ						80	1	10	1														10	1	100	
専門教育科目	動物環境生理学	2	選択必修	6セメ						10	1	80	1														10	1	100	
専門教育科目	応用動植物科学特論	1	選択必修	6セメ						20	1	80	1																100	
専門教育科目	応用動植物科学特論	1	選択必修	5セメ						20	1	80	1																100	
専門教育科目	卒業論文 ~	6	必修	6-8セメ		10	3	5	3					5	3	5	3									10	3	65	10	100

応用動植物科学専攻プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門分野に関わる課題を解決するために必要な、学際的・総合的に考える能力や、広い視野から俯瞰し行動するための知識・理解	平和科目()	生物資源科学リサーチフロント()			動物福祉論()	卒業論文()	卒業論文()	卒業論文()
	平和共修科目()							
	教養ゼミ()	食品生命科学リサーチフロント()		動植物生産学概論()		公衆衛生学()		
	大学教育入門()	科学技術倫理学()				食品衛生学()		
	生物生産学入門()	食料資源論()						
		フィールド科学演習()						
領域科目(○)								
専門分野を学ぶために必要な基礎的知識・理解	生物生産学入門()	有機化学()	生物統計学()	動植物生産学概論()		卒業論文()	卒業論文()	卒業論文()
	微生物学入門()	細胞科学()	生理学入門()			公衆衛生学()		
	基礎化学実験()	生物資源科学リサーチフロント()	生物環境学()			食品衛生学()		
		食品生命科学リサーチフロント()	食品生命科学リサーチベーシック実験A()					
		科学技術倫理学()	食品生命科学リサーチベーシック実験B()					
		食料資源論()	生物資源科学リサーチベーシック実験A()					
		生物生産学のための物理学入門()	生物資源科学リサーチベーシック実験B()					
		分子生化学入門()						
	フィールド科学演習()							
知識・理解 動植物生産に関わる分子・細胞・個体レベルの生命現象や、それを支える生産環境についての知識・理解	生物生産学入門()	生物資源科学リサーチフロント()	生理学入門()	植物栄養生理学()	生殖生物学()	食品衛生学()		
	微生物学入門()	食品生命科学リサーチフロント()	生物環境学()	植物生産土壌学()	動物生産管理学()	食品生化学()		
		生物生産学のための物理学入門()		動物遺伝育種学()	植物生産学実験()	動物環境生理学()		
		分子生化学入門()		動物栄養学()	動物生産学実験II()	応用動植物科学特論II()		
				動物生体機構学()	植物バイオサイエンス()			
				動植物生産学概論()	動物生産生理学()			
				応用動植物科学実験実習()	草地・飼料学()			
				動物生産学実験I()	植物分子生物学()			
					応用動植物科学特論I()			
					応用動植物科学特論III()			

学習の成果 評価項目	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
フィールドにおける動植物生産機構並びに動植物と人間社会・自然環境との関係について、知識・理解	生物生産学入門()	生物資源科学リサーチフロント()	生理学入門()	植物栄養生理学()	生物生殖学()	公衆衛生学()		
		食品生命科学リサーチフロント()	生物環境学()	植物生産土壌学()	動物生産管理学()	食品衛生学(○)		
		科学技術倫理学()		動物遺伝育種学()	農場実習()	食品生化学(○)		
		食料資源論()		動物栄養学()	植物バイオサイエンス()	動物環境生理学()		
		フィールド科学演習()		動物生体機構学()	動物福祉論(○)	応用動植物科学特論II()		
				動物生産学概論()	動物生産生理学()			
					草地・飼料学()			
					植物分子生物学()			
					畜産食品製造学実験実習()			
					応用動植物科学特論I()			
					応用動植物科学特論III()			
				酪農フィールド科学演習()				

学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
能力・技能	専門的分野を学ぶために必要な基礎的コミュニケーション・情報処理・身体活動の能力	外国語科目()		生物統計学()		応用動植物科学外書講読()		卒業論文()	
		情報・データ科学入門()		データサイエンス基礎()					
		健康スポーツ科目()							
	専門分野を学ぶために必要な基礎的実験能力・技能			「生物学実験法・同実験I」()		動物生産学実験I()		畜産食品製造学実験実習()	
				フィールド科学演習()		生物統計学()			
						食品生命科学リサーチベーシック実験A()			
						食品生命科学リサーチベーシック実験B()			
						生物資源科学リサーチベーシック実験A()			
	動植物の生産機能について、分子・細胞・個体レベルで生物学的な基本分析と評価能力					応用動植物科学実験実習()		植物生産学実験()	
						動物生産学実験I()			
動植物の取り扱いや試験ならびに飼育・栽培管理の基本的な手技					応用動植物科学実験実習()		植物生産学実験()		
							動物生産学実験II()		
							農場実習()		
動植物の生産現場における飼育環境の基本的な評価能力					応用動植物科学実験実習()		植物生産学実験()		
							動物生産学実験II()		
							農場実習()		
英文の専門的学術論文読解の基礎となる科学英語を修得するとともに習得した知識・フィールドへのアプローチ方法を基礎とした国際的コミュニケーション能力							応用動植物科学外書講読()		
							卒業論文()		
総合的な能力	動植物生産に関連する具体的諸事象について、自らの対象を設定し、それについての自分の考えをまとめ、文章や口頭で論理的に発表し、応答する能力	生物生産学入門()		生物資源科学リサーチフロント()		食品生命科学リサーチベーシック実験A()		植物栄養生理学()	
				食品生命科学リサーチフロント()		食品生命科学リサーチベーシック実験B()		植物生産土壌学()	
				科学技術倫理学()		生物資源科学リサーチベーシック実験A()		動物遺伝育種学()	
				食料資源論()		生物資源科学リサーチベーシック実験B()		動物栄養学()	
				フィールド科学演習()				動物生体機構学()	
								動物福祉論()	
						動物生産学概論()		動物生産生理学()	
						動物生産学実験I()		草地・飼料学()	
						酪農フィールド科学演習()			

(例) 教養科目 専門基礎 専門科目 卒業論文 ()必修科目 ()選択必修科目 ()選択科目

応用動植物科学プログラム担当教員リスト（令和8年4月1日現在）

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
磯部 直樹	教授	7993	B309	niso@hiroshima-u.ac.jp
上田 晃弘	教授	7963	B111	akiueda@hiroshima-u.ac.jp
小櫃 剛人	教授	7955	B506	tobitsu@hiroshima-u.ac.jp
杉野 利久	教授	7956	B504	sugino@hiroshima-u.ac.jp
富永 るみ	教授	7966	B112	rtomi@hiroshima-u.ac.jp
米澤 隆弘	教授	7950	B409	tyonezaw@hiroshima-u.ac.jp
梅原 崇	准教授	7962	B408	pd7221@hiroshima-u.ac.jp
河上 眞一	准教授	3857	B505	skawak@hiroshima-u.ac.jp
黒川 勇三	准教授	7973	農場	yuzokuro@hiroshima-u.ac.jp
鈴木 直樹	准教授	4182	農場	naosuzuki@hiroshima-u.ac.jp
長岡 俊徳	准教授	7969	B111	tnagaok@hiroshima-u.ac.jp
中村 隼明	准教授	7943	B409	ynsu@hiroshima-u.ac.jp
新居 隆浩	准教授	4147	B408	tanii@hiroshima-u.ac.jp
稲生 雄大	助教	7957	B507	inabu@hiroshima-u.ac.jp
妹尾 あいら	助教	7974	農場	airaseosan@hiroshima-u.ac.jp
南平 眞実	助教	5754	B112	nampeimami@hiroshima-u.ac.jp
金地 通生	客員准教授			担当授業科目：応用動植物科学特論
篠塚 康典	客員教授			担当授業科目：応用動植物科学特論
武井 宏将	客員准教授			担当授業科目：スマート酪農科学演習

「082 - 424 - (内線番号4桁)とすれば、直通電話となります。